

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事例概要について】

| | |
|-----------------|---|
| 1. 事故・ヒヤリハットの別 | 事故事例 |
| 2. 体験した事例の名称 | 仮眠用ベット（二段式）階段部分よりの転落事故 |
| 3. 体験した事例の中心的要素 | 本部指令室員が仮眠中に火災発生の報をうけ、二段ベッドから降りる際に転落、負傷したもの。 |
| 4. 体験した事例の原因・理由 | 仮眠していたため若干意識が朦朧としていたこと。仮眠室に常夜灯が点灯していなかったため暗闇であったこと。仮眠ベッドの階段の桟に滑り止め等の対策がなされていなかったこと。 |

【体験した事例の直接的原因について】

| | |
|------------------|---------------|
| 1. 体験した事例の直接的な原因 | 行動の実行に問題があった。 |
|------------------|---------------|

【体験した事例について】

| | | |
|----------------------------------|----------------------|---------|
| 1. 発生日時 | 平成 18 年 8 月 13 日 | 午前 3 時頃 |
| 2. 発生した当時の天候 | 晴 | |
| 3. 発生した活動現場 | 屋内 : | |
| 4. 体験した事例の種類 | 回答者が、自分自身で負傷した。 | |
| 5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度） | 軽傷の怪我 | |
| 6. どのようなことが起きたのか (起きそうになったのか) | 墜落・転落、 | |
| 7. 事例体験時の活動 | その他 : [] | |
| 8. (7 の活動中) どのような作業中に発生したか | その他 : 仮眠ベッド階段部分からの転落 | |
| 9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。 | 初めて体験した。 | |

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

| | |
|------------------------|---|
| ○当事者 A | 年齢[47]歳、 勤続年数[25]年、 現場経験年数[25] 年、 階級[消防士長]、 同様の活動 [初めて]、 任務 [その他 : 指令室員] |
| ○当事者 B | 年齢[]歳、 勤続年数[]年、 現場経験年数[]年、 階級[]、 同様の活動 []、 任務 [] |
| ○当事者 C | 年齢[]歳、 勤続年数[]年、 現場経験年数[]年、 階級[]、 同様の活動 []、 任務 [] |
| その他 (当事者が 4 人以上の場合) | |

11. 事例発生の経過。

| | 誰(何)が | なにをした | その他・備考など |
|-------|-------|------------------------|----------|
| 経過 1 | A | 二段ベッドから降りる際に転落、負傷したもの。 | |
| 経過 2 | | | |
| 経過 3 | | | |
| 経過 4 | | | |
| 経過 5 | | | |
| 経過 6 | | | |
| 経過 7 | | | |
| 経過 8 | | | |
| 経過 9 | | | |
| 経過 10 | | | |

【その事例発生時の状況について】

A horizontal line consisting of 20 solid black circular dots, evenly spaced from left to right.

○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか?

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

体力、反射神経等身体能力が劣っていた。集中力、注意力がなかった。周囲の視界が確保できなかつた。足元の安全が確保できなかつた。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

- ・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。 はい
 - ・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。 いいえ
 - ・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。 いいえ

b. 注意力が欠如していた

- ・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。 いいえ
 - ・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。 いいえ
 - ・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。 はい

6 経験・知識が不足していた。

| | |
|----------------------------|-----|
| ・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。 | いいえ |
| ・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。 | はい |
| ・活動に対する経験が不足していた。 | いいえ |

d. 心身の不調があった

| | |
|-----------|-----|
| ・体調が悪かった。 | いいえ |
| ・悩み事があった。 | いいえ |

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

| | |
|---------------------|-----|
| ・装備・資機材自体に問題があった。 | はい |
| ・装備・資機材の使用方法が誤っていた。 | いいえ |
| ・装備・資機材の対処能力を超えていた。 | いいえ |
| ・必要とする装備・資機材がなかった。 | いいえ |

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

| | |
|---------------------------------|-----|
| ・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。 | いいえ |
| ・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。 | はい |

g. 行動しにくい環境だった。

| | |
|------------------|-----|
| ・狭隘な場所であった。 | はい |
| ・暑かった（寒かった）。 | いいえ |
| ・野次馬が多かった。 | いいえ |
| ・現場周辺の地理に不案内だった。 | いいえ |

h. 足場が悪かった。

| | |
|-------------------|-----|
| ・足元が躊躇したり滑りやすかった。 | はい |
| ・足元の強度が不足していた。 | いいえ |

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

| | |
|-------------------------------------|-----|
| ・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。） | いいえ |
| ・指示内容に誤り・偏りがあった。 | いいえ |
| ・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。） | いいえ |

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

| | |
|----------------|-----|
| ・隊員の連携が不十分だった。 | いいえ |
| ・隊員が不足していた。 | いいえ |

○その他

l. その他の理由があった。

| |
|-----|
| いいえ |
|-----|

【事故発生後の取り組みについて】

・・・・・・・・・・・・・・・・

○注意力欠如、焦り等の対策について

仮眠中より、現実に戻るまでやはり時間が必要であるが、火災発生という緊急時に意識を戻す時間をかけられなかつた面もあり、少しの時間でも現実の状況判断ができるようにするべきであった。

○装備・資機材の対策について

常夜灯の設置、階段滑り止めの貼り付け等をおこなう必要があった。

○活動環境の対策について

火災指令トーンの対策（音量調整）

○指揮・情報伝達の対策について